

2. いのちの学校 (生と死の文化を学び語り合う学校)

(1) WILD WOMAN2023「ソラをみあげてイノチをおもう」

【開催日】7月2日(日) PART 1 13:30~15:30 / PART 2 18:30~19:30

【会場】PART 1 コミュニティスペースとんとんひろば / PART 2 SENNO

【ゲスト】高橋真理子(星つむぎの村)、高瀬“makoring”麻里子(歌手)、覚和歌子(詩人)、栗田妙子(ピアノ)、鳥毛こずえ(にんぎょうげきやさん)

【参加者】PART 1 22名(うち子ども3名)、PART 2 2名

【評価】音楽と詩の朗読とプラネタリウムと影絵・人形劇を通じて、参加者それぞれがいのちのことを想う充実した企画だった。乳幼児連れの親子から高齢者、がんや難病を抱えた当事者の方が参加され、音楽などを通じた垣根のない交流の機会となった。訪問看護を利用されている痛みを抱えた女性が久しぶりに友人と外出するきっかけになったと喜んでおられた。



まこりんと覚さんの歌声



詩の朗読 覚和歌子さん



人形劇と影絵 鳥毛さん



天井に映し出された
プラネタリウム



PA:ピアノと影絵の
セッティング中



仲良しの友人仲間でご参加



【PART 2】
カリンバで歌うまこりん

【アンケート】

- ・歌や詩の朗読とプラネタリウムや人形劇もあって得した気分になった。楽しかったです。
- ・プラネタリウムで遙か遠くの宇宙に旅をして、今ここにいる自分が愛しくなった。
- ・影絵と人形劇がおもしろかった。
- ・はじめてお会いした方々と一緒に寝転がってプラネタリウムを見上げるなんて、不思議な体験だったけれど、いい時間でした。
- ・友人と参加しました。覚さんの朗読が心にしみて力をもらいました。
- ・まこりんの歌声にエネルギーを沢山頂きました。今年も1歳になった息子と親子で参加できました。やあのいえのみなさま、ご配慮ありがとうございました。
- ・贅沢な時間でした。こんなにすぐそばで歌や詩の朗読を聴けるなんてなんて幸せ♡
- ・まこりんの大ファンです。今回もキレイな歌声とステキな詩の朗読にとっても癒されました。
- ・いつもとんとんひろばでお世話になっています。心が浄化されました。今後ともよろしくお願いたします。
- ・生の音楽はやっぱりいいです。そしてプラネタリウム。豊かな時間をありがとう。

(2) 日本語で語る臨床倫理

【開催日】7月15日(土) 13:30~16:00

【会場】コミュニティスペースとんとんひろば

【講師】「岐路に立つACP」新田クリニック院長 新田國夫先生
「自己決定の畏」ジャーナリスト 迫田朋子氏

【参加者】16名(医療保健福祉従事者、一般市民)

【評価】病気になったときの療養場所の選択について現状と課題について学んだ。医療保健福祉従事者と在宅看取りを経験されたご家族の参加があり、座談会ではそれぞれの言葉で人生の最期の時間の過ごし方について本音で語り合えた。参加者の大半が医療保健福祉従事者で、一般の方々に自分ごととして、関心を持っていただけるよう広報のあり方を検討していく必要がある。



【参加者の声】

- ・人生会議については聞いたことがあったが具体的に学んだのは、はじめてだったが、とてもわかりやすく自分のこととして考えることができた。
- ・人生の最期は病院だと思っていたが、新田先生の在宅医療のお話を聞いて自宅で過ごせる可能性があることを学んだ。小松でも自宅で最期まで過ごせるのだろうか？
- ・小松の在宅医療を担う医師が不足している実態を知って将来が不安になった。
- ・迫田先生から自分が望む最期の時間の暮らし方を家族で語り合っておきたいと思った。

(3) こまつ医療・介護連携講演会

【開催日】10月7日(土) 18:30~20:00

【会場】サイエンスヒルズこまつ わくわくホールC

【参加者】45名(一般市民、医療福祉従事者など)

【内容】「2040年を見据えた地域医療構想 ―社会システムとしての医療と福祉―」

講師：厚生労働省医務技監 迫井正深氏

【評価】「こまつ認知症ほっとけんサミット」と連動する形で前日の夜に開催した。

小松市医師会、小松市との共催で広報を行うことで、一般市民だけでなく、医師や病院関係者、行政関係者の参加が多かった。将来的地域医療の在り方を現在の課題から見据えた講演内容は、小松の地域医療の在り方について一同で考える貴重な機会となった。小松に医務技官をお迎えでき、医務技官との交流の機会が提供できて有意義な時間だった。迫井氏には、翌日のこまつ認知症ほっとけんサミットにもご参加いただき交流を深めていただいた。ホームホスピスもう一つの家やさんの見学、コミュニティスペースとんとんひろばでは聞き書きカフェにもご一緒いただくなど、当法人の活動をご紹介させていただく機会をいただき、ホームホスピスの現状と課題をご理解いただくことができ、今後につなげることができた。



【参加者の声】

- ・厚生労働省の医務技監の講演を身近に聞くという大変貴重な機会をいただき感謝している
- ・ほっとけんサミットへの参加をきっかけに本講演のを知ることができ有意義だった。

(4) 小松がんと共に自分らしく生きる会「まんまーる」

【開催日】毎月第4日曜日 13:30~15:30

【会 場】コミュニティスペースとんとんひろば

【参加者】述べ65名（当事者、家族、医療福祉従事者など）



【内 容】病院ではない身近な場所でがんについて語り合える場所が欲しいという要望に応じて実施。交流座談会、絵手紙、クリスマスリース作り、元ちゃんハウスの視察などを行った。参加者に毎回お知らせすると共に、小松市の広報にも毎月お知らせを掲載し、新しい方をお迎えしている。

【評 価】「まんまーる」だけは絶対行きたいと体調を整えて楽しみにされている方が多い。当事者同士のおしゃべりなどから療養のヒントをいただいているとのこと。次回の計画をみんなで話合うようになった。絵手紙、クリスマスリース作り、元ちゃんハウスの視察などの希望があり実現した。若い頃から合唱に取り組んできた方が最後の合唱と「エーデルワイス」をご披露いただいたことは忘れられない思い出となった。お一人おひとりの思いをお聞きし「まんまーる」以外の時にも声をかけあっているスタッフの細やかな心配りも、来られる方の安心感につながっている。



【利用者の声】

- ・まんまーるでは不思議と不安や弱音も何でも話せます。
- ・クリスマスリース作りは抗がん剤治療の只中でしたが、どうしても参加したいと思ってきました。きれいにできてうれしかったです。玄関に飾ってみんなに見ていただきます。
- ・西村元一先生の新聞記事をずっと読んでいました。ずっと元ちゃんハウスを訪れてみたいと思っていたので、みんなで出かけることができてうれしかったです。外食も久しぶりでご褒美のような一日でした。